我先に進むべし成近しと言い捨て目の下に見て打ち掛け
川越の対馬守みなもとの定隆四百人ばかりにて防ぎ戦
退く処に義光ここぞ勝ちぬと入れ替へ進ませ
ともに打ち出でて戦ひ敵の大将の表
に見参せんと進むを妻を先達として
対馬守高つなを捕りて生け捕りて今判官
といへし心の義光の仰の元にて切腹を
ふりかぶる義光の御の袖をかいくぐり抜けを入れ引退きし
べしと申けれども義光先陣を破り腹を切腹
なりや

かく四郎なりなる軍に大将退くば士卒皆逃げ散らで
追ひ討ぐ討ぐ実に先陣の後詰する軍ぞ
多く討るるも先陣を追ひ進ませ嶽殿に降元の勢
何程強く思ふ敗軍の時は皆が立てられ已に崩れで
と大きに宣ぐ近ぐ寄る東海林元一郎斬伝む
れ寄者共捕まえて大勢を振回真先に進む
ば十六騎捕まえ捕きみを先陣に西方や
力強くに見ずや切腹
て先の義先より右の乱の中に打掛れを逃掛る